



5月のミスエスジャパン2020全国大会で着用した衣装に、日本代表の証であるサッシュを飾って。「他との競い合いでも、一番の敵は自分。自分と向き合って闘い続けました」。自分の人生を見つめ直し、今後を展望するいいチャンスだったとのこと

弓田浩子(ゆみたひろこ)

鍼灸師、鍼灸サロン つば美オーナー。1973年生まれ。大阪府出身。父の転勤で中学から仙台へ。京都の同志社女子大学卒業後、仙台で母の店を手伝う傍ら、2003年開業。赤門鍼灸柔整専門学校卒、鍼灸国家資格取得。ミスエスジャパン2020愛知大会グランプリ受賞、ミスエスジャパン2020日本代表、世界大会ミスエスレジェンドユニバーサル2021ファイナリスト

りらくインタビュー

弓田 浩子

2020ミスエスジャパン日本代表
鍼灸師

笑顔を広げ、世の中をもっと明るく！
美と健康をもっと追い求めて。
日本のミスエスを代表して世界へ。

きっかけとか。かなり思いきった決断ですね？

これまでになく自分の時間が持てたので、何か新しいチャレンジをと考えていた時、知人に奨められたのです。コンテストなどの経験は一切なく、「美しさを競うって、どういうこと？」と、とまどいました。でも仕事で多くの女性と接するうちに、美しさは充実した心身の、内面から湧き出るものと確信していました。そこで、自分自身でどこまでできるか、エントリーしてみようと考え直したんです。

東北では地方予選が行われず、愛知大会に応募したのが去年7月。以後2カ月、筋トレやウォーキング練習に明け暮れました。

—中3、小6、小4のお嬢さんたちも、愛知会場で応援してくれたそうですね。

娘たちは最初、コンテストに出ると言うのが驚きました。「人前が苦手な母親がなぜ!?」と、ステージ上にいる私など全く考えられなかったのかも(笑)。それでも今、次女

はサッカー、三女は剣道に夢中です。長女も、受験のため引退しましたが、バドミントン部で部長を務めておりました。だから何かに応援団になってくれました。

実のところ、私は極端な「あがり症」です。大会前1週間は、「緊張のあまり、壇上で気を失ったらどうしよう」と不安が募り、睡眠不足。「娘たちが一緒に来てくれて、母は心強い」というのが本心でした。

大会はどうかウォーキングや自己紹介の審査を終え、結果発表でグランプリに私の名が！ すごく驚きましたが、娘たちの目の前で受賞できうれしかったです。

—全国大会では、スピーチや浴衣ウォーキングなどの審査も加まりました。

スピーチの内容は「鍼灸師として、女性の美容と健康づくりをお手伝いしながら、これからもたくさん女性の性を輝かせたい。笑顔を広げること、社会を明るくしていきたい」。この原稿を作る際は、これまでの自

純白のドレスにティアラ、おだやかな笑顔が映えて……。鍼灸師であり、三姉妹の母でもある弓田浩子さんは、昨年「ミスエスジャパン2020」にエントリー。9月の愛知大会でクラシック部門(46歳以上)グランプリを獲得後、今年5月の全国大会で東北初の日本代表に輝いた。

弓田さんの信条は「笑顔の輪を広げる」。常に自分を磨き続ける、ひたむきな向上心やその思いをうかがった。

—サロンを開設して18年。コンテスト出場も、仕事に活かしたいと考えたそうですね。

私は東洋医学に基づく美容・美顔鍼を中心に、お客様の美と健康をサポートしてきました。その中で、女性が健康で美しくあることの大切さも実感しました。女性が美しくなると、笑顔が増えて前向きな気持ちになる。主婦がいつも笑顔でいると、ご主人やお子さんたちも明るくなり、力が湧いてくるはず。だから、もっと世の中に笑顔を広げるにはどうしたらいいのかと……。

施術中は、お肌や身体上のことだけでなく、仕事や家庭の悩みを聞く機会も少なくありません。お客様に納得し、喜んでもらえるよう、しっかりと相談に応える必要がある。こうしたことから、私自身も成長しなくては、いつも考えていました。

—コロナ禍でご自身に余裕ができたことが

分の生き方や考え方を深く掘り下げることができ、いい経験になりました。

また浴衣ウォーキングに向けては、日本女性のたしなみを身に付けようと、和装全般を勉強し、着付けも練習しました。

そしてパフォーマンス審査。中学時代に経験していた剣道を思い出し、居合道を新たに習って演じました。「鬼滅の刃」ブームのせいか、刀剣を使った方が3人も(笑)。居合道は世界大会に向け、今も指導を受けています。

—取り組み方が真っ直ぐで徹底していますね。ご自身、真面目な性格でしょうか？

ええ、真面目なことだけが取り柄かもしれませんが(笑)。いつも、いろいろ考えてし



5月に静岡で開催されたミスエスジャパン2020全国大会の授賞式の様子

美しさは、健康で充実した心身の内面からにじみ出るもの 輝きを放つ70～80代の女性たちをお手本に、 どこまでも自分を磨き、成長させていきたい



顧客は20～80代と幅広く、プライダル準備の男女、美意識の高い個人男性客も多い。世界大会が終わったら、大好きな乗馬を再開するつもりだ

れまでにないほど多くの人と出会い、多くの経験を積みました。世界大会でも驚くような体験が待っているはず。この貴重な時間を大切に過ごしながら、少しでも人間として成長できればと思っています。

― サロンの美顔術は、東洋医学のツボや鍼灸を組み合わせたものとうかがいました。

店名の「つぼ美」は、ツボを刺激することによって美しく、との意味を込めたもの。美容や健康の悩みをじっくり伺いながら、個人個人に合わせた施術を進めます。鍼の一番の特長は、鍼を刺すことで内側からのケ

― お客様へ、食事や運動などの生活指導もされるそうですね。

健康管理は食事と睡眠、生活のリズムが基本で、東洋医学では大事な部分。特に身体を冷やさないことが大切です。例えば、暑い夏に採れる野菜は、身体を冷やす作用を持っています。だから、その季節に採れる旬の野菜を食べることが冷えを防ぐことにつながる……とか。

ミセスの方から家族の健康相談を受けることもあり、栄養バランスの話もします。

最近のコロナ禍で話題になるのが、自粛生活でのストレス問題。人間はストレスがかかるのと免疫力が下がり、体調不良を引き

― 目下は世界大会の準備でしょうが、将来に向けての展望は？

コンテストのスピーチで話したとおり、もっとたくさんの女性の美容と健康に関わり、もっとたくさんの笑顔を広めていくことが目標です。世界大会の準備のためにも、さらに勉強して自分を磨いていきたいです。

周囲を見回すと、70、80代でも輝いている女性が数多くいらっしゃいます。自分の意志や目標を大切に、生活を楽しくすることで、内側からにじみ出てくるような美しさというのでしょうか。私もぜひ、年齢とともに輝ける自分を目指していきたいです。

鍼灸サロン つぼ美
仙台市青葉区本町3-6-17
<https://www.tsubomi.info>

インタビュー／那波由美子
撮影／鈴木江美

人前が苦手、極度な“あがり症”の自分を奮い立たせ ウォーキング、ポーズや表情作りを猛特訓 貴重な経験をさせていただき、映えある受賞の贈り物まで！



ミセスジャパン2020全国大会で見事なスピーチを披露

もうタイプかも。

地方大会は自分のことだけで良かったけれど、全国大会に進むにあたっては、愛知代表としての責任が加わります。出られなかった方々の思いも背負って頑張りました。

来年に延期されたマレーシアでの世界大会ですが、日本代表に選ばれたからには、全国のみセスの思いを届けなければ。これからもっと自分を磨き、ステップアップしていこうと考えています。日本文化の豊かさとともに、日本女性ならではのたしなみ、芯の強さなども世界にアピールしたいですね。

― さて、東洋医学と出会ってからサロン経営の現在まで、どのような歩みでしたか？

京都での大学生活は、過呼吸や不眠など自律神経失調症に悩まされました。病院で検査しても悪いところはなく、精神安定剤

― その間に結婚、出産されました。仕事との両立は大変では？ しかも7年前に離婚し、シングルマザーになりました。

長女を出産したのが、サロンが順調に伸び

アができること。つまり体内に異物である鍼が侵入すると、身体が免疫反応を起こして血行を促進させます。血行が良くなれば、お肌のむくみやくすみが取れたり、リフトアップにつながったり。誰もが備えている自然治癒力を高め、美容・美顔だけでなく身体全体の不調を整え、内面から健康で美しくなることを目指しています。

東洋医学のツボは、全身を走る経絡つながっています。美顔鍼を施術した方が、思いがけず身体の不調まで改善することも少なくありません。

私自身、目の疲れや頭痛、肌荒れが気になる時などに鍼を使い、効果は実感しています。

― 日頃からお子さんたちに声かけていること、願っていることはありますか？

自分の目標や興味あることには、どんどん突き進んでほしいと思っています。勉強も大切だけれど、人とコミュニケーションを取れる人間力が一番。だからいつも言うのは、失敗してもいいから、恐れずにチャレンジしなさいと。失敗することで振り返りや反省ができ、経験となって成長につながるはず。いろいろなこと、いろいろな方たちとの関わりを大事にしてほしいです。

私も今回、コンテストに出たことで、こ



サロン奥に区切られた施術室を完備。頭皮ケアから代謝アップ、全身鍼ほか、個人に合わせてさまざまなメニューを提案している

起こしやすくなります。

また身体を動かさないでいることも、筋肉が落ち、体温を下げてしまうので要注意。ご自宅でできるストレッチや、簡単な筋トレなどを工夫するといいでしょ。



賞状は左から愛知大会、全国大会、世界大会ファイナリスト、フェイスブック投票1位で授与されたもの。サッシュやティアラも輝きを添える

びていた頃。ぎりぎり、生まれる前日まで仕事をしていた大変でした。スタッフ数人が勤務した時期もあるけれど、ほとんどのお客様は私に施術をしてほしいとなる。結局、今は1人でやっています。

子どもたちは同居する母が見てくれます。母の店は閉じていたので、食事や家事も任せられる。おかげで私は、夜まで仕事に打ち込むことができます。

娘たちはそれぞれ受験勉強や部活などに一生懸命。サツカーをやっている次女は、マイナビ仙台レディースを目指すんだとか。ですから、日曜日に私が休みでも、案外時間が合いません。ごくたまに外食や買い物に行く程度です。一緒の時間は少なくとも、母として、しっかり彼女たちを応援しています。